

みすていっく☆ばる〜ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

【第9話（解答編）】

図書館から飛び出したミスティアは、北の森を目指してまっすぐに飛んでいきます。

ミスティア

（並べ方の秘密は、オーブの色と、魔法文字で表したときの真（まこと）の名前）

（誰かがくれたオーブは、ゴールドでもコハクでもなく、アンバーオーブ）

（それ以外のオーブも、本当の色が真の名前）

（パープルオーブの紫は、ライラックの花の色）

（ピンクオーブの赤紫は、夕焼けのマゼンタ）

（やっぱり王様は知ってたんだ）

* * *

ミスティアがオーブの台座に着いたときには辺りは真っ暗でした。
しんと冷えた暗月の下、確かめるようにしながら、ひとつ、ひとつ、オーブを捧げていきます。

ミスティア

「夕焼けのマゼンタオーブ、



ヒマワリのイエローオーブ、



銀のシルバーオーブ、



青空のブルーオーブ、



コハクのアンバーオーブ、



最後はライラックオーブ！！

みすていっく☆ばる〜ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ



* * *

●m ●y ●s ●b ●a ●l

捧げられた6つのオーブが、台座の天面でまばゆく光りはじめました！ オーブに秘められた謎が解けたのです！！

突然の明るさにミスティアが目を閉じると、ひゅう、と鳴る笛の音がいくつも聞こえてきました。そしてそれに続く巨大な太鼓のような轟音。驚いて目を開けたミスティアが見たのは、夜空いっぱい広がる花火の大輪でした。

???

「ミスティアよ、この度の素晴らしい活躍、しかと見届けた！」

ミスティアが振り向くと、そこには王様たちが揃って立っていました。

「王様！？ 大臣さん、図書館長さん、それにみんなも！ やっぱりそういうことだったのね！」

王様

「バレていたか。実は1年ほど前にミスティアが読んだと言っていた本は、私も小さな頃に好きだった話でね。どうせ冒険に出るなら目的があったほうがいだろうと思って、城の者に命じて6つのオーブを作らせたというわけだ。大臣よ、関係各所への協力要請で苦労をかけたな。首席顧問よ、魔力を持ったオーブの作成、見事であった。それから……」

ミスティア

「ちょっと待って！ 私以外のみんなが知ってたのは分かったわ。でも、そしたら、オーブを揃えてもお宝とかは出てこないの？ 楽しみにしてたのに」

王様

「まあ、それはそういうことに……」

ばつの悪そうな表情を見せかけた王様に、傍にいた図書館長がそっと耳打ちをすると、王様の顔はすぐに威厳を取り戻して、高らかに言い渡しました。

「……いや、もちろん褒美を取らせよう。何でも聞くところによると、図書館から長らく

みすていく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

本を借り続けているそうではないか。それほど気に入っているのなら、その本をミスティアに与えよう！」

ミスティア
「えー！！」

ミスティアの叫びは皆の笑い声に温かく包まれ、次々と打ちあがる花火が全員を色とりどりに照らし続けるのでした。

* * * * *

MYSBAL QUEST

ミスティア探検隊と6つのオーブ

作：水狂

完

* * * * *